

心も養なう大学生協食堂

いも類振興情報編集部



K大学のキャンパス

1. 緑に囲まれた学び舎

石川県金沢市の南東、なだらかな起伏のある丘陵地にK大学のキャンパスは展開しています。人里離れた、まるで国立公園のような、緑したたる自然のなかに超近代的な学棟が点在し、道路から見上げるような、丘の上の各建物は跨道橋で結ばれていますので、清らかな空気を胸いっぱい吸い込みながらの、道と学棟との間の昇り降り、学棟間の移動等で、ひとりでの足腰が鍛えられ、気持ちは晴れ晴れとし、勉学に励むにはこれ以上恵まれた環境はありません。

K大学は、昭和24年（1949）に市の中心、兼六園の隣にある金沢城趾に設立されました。戦前戦中は陸軍の師団、兵営があったところで、とりあえずここで発足したのですが、

時代の移り変わりにともなって広く充実した施設が必要となり、また勉学のためにも、なるべく自然豊かなところで、とのことで平成7年（1995）に現在の地に移転しました。

キャンパスのまわりは自然があるだけで、人家、商店、事務所その他の施設はまったく無く、気持ちを集中させて勉強できますが、交通の便はかならずしもよいとはいえません。金沢駅前からK大学行きのバスで約40分、学内には各学部ごとに停

留所が設けられています。結構本数は多いのですが、何せ学生さんの数も相当なもので、朝の通学時、また帰りの時間帯の混雑は免れません。かなりの学生さんがマイカー通学をしていて、広い駐車場が何カ所ありますが、これも時代というものでしょうか。

2. 長い列ができる食堂

商店、食堂が近くにありませんので、学生さんたちは弁当を持参するか、学内の食堂、売店を利用するかで昼食をとっていますが、K大学生活協同組合が運営する食堂の利用者が多いようで、午前の講義が終わる頃には、食堂前には延々長蛇の列ができます。気が遠くなるような長い列も、学生さんたちのメニューの選定が早く、また従業員の方たちの手

際がよいので、それほど長時間待たなくても食事にありつけますが、正午から午後1時少し前の時間帯は混雑のピークで、席との関係もあって、なるべくこの混雑時を避けての利用をお願いします、との掲示がありました。それですから、食事が済んだあと、すわって学友と長々と議論をする、などの光景はみられず、済ませると食器を持ってすぐに退席してゆきます。

どのような食事が提供されているのでしょうか。

K大生協食堂には3つのコーナーが設けられています。麺類、丼あるいはカレー、それに定食ですが、他のセルフサービスのレストランと同様に、利用者はトレー（お盆）をもって自分の好みのコーナーにゆき、注文をして受けとり、それをレジにもってゆきますが、レジの人がすばやく計算し、代金を支払って席につきます。麺類、丼あるいはカレーは、コーナーに提供できる品が絵、写真で示されていますが、定食は主菜、副菜が器に盛られて並べられていますから、希望する品をとってトレーにのせ、ごはん、みそ汁などとあわせてレジへと向かいます。もちろん主菜、副菜と麺類、カレーなどをいっしょに注文してもよいわけで、そのようにしている食欲旺盛な学生さんもかなりいました。

定食では、カツカツ、コロッケ、魚のフライなど、蛋白源となり、高カロリーの主菜に人気がありますが、そのほかカボチャの煮付け、キンピラゴボウ、冷ややっこ、ハウレンソウのおひたし、など、ヘルシー感覚な、どちらかというと中高年の人た

ちが好みそうなものも多く、そのうえデザートも用意され、杏仁豆腐、パインアップルなど、少々贅沢かな、と思われるものも並べられ、昔の学生生活とは比べものにならない豊かさが感ぜられます。

3. 定番メニューのなかの“いも”たち

大勢の人たちに手早く食事を提供しなければなりませんので、どうしても手の込んだものは出せず、半調理品も利用せざるを得なくなりますが、この食堂では、いも類はどのように用いられているのでしょうか。

季節にもよりますが、この時期（初夏）のメニューでは

コロッケ（明太子、牛肉）

ポテトサラダ

肉じゃが

大学いも

などがみられ、いずれも他のレストランでの定番料理として人気のあるものです。ただ、名前は同じコロッケ、肉じゃがでも、味のつけ方などに若い人向きの工夫がこられさてい



Aさんの昼食、左上大学いもと杏仁豆腐
右上明太子コロッケ

ます。

明太子コロッケは、博多名物辛子明太子をほぐして、じゃがいものマッシュに加え、しょう油？で味付けしたものを丸くかたどって揚げたものですが、丁度このときは「九州沖縄フェア」というイベントをこの食堂で行っていて、そのために九州名物のメニューの一つとして加えられたものであり、時折このようなイベント、季節限定の特別メニューをつくり、ともすればマンネリになり勝ちな学生食堂に変化を与え、学生さん達に喜んでもらい、食への関心を高めてもらおう、との配慮がされていました。

肉じゃがもまた、いわゆるおふくろの味として定評のある惣菜ですが、K大生協のそれは一般のしょう油と砂糖で甘辛く味付けされたものではなく、さらりとしたカレー味に仕上げていて、いかにも若い人向きです。肉の量は決して多くはありませんが、そのかわりじゃがいもはたっぷりで、ともすれば野菜不足に偏りがちな外食としては、まことに合理的でした。

ポテトサラダはマッシュしたじゃがいもに、じゃがいもの角切り、それにコーンとニンジンが入っていますが、色はほとんど白い、との感じで、白い器に盛られていると、遠くから眺めたとき何も入っていないように見えます。

4. これで親も子も安心

食の安心、安全についての世間の関心が高まるなか、ここでも細心の気配りで食材の調達が行われていますが、さらに、はじめて親許を離れて暮らし、学ぶ若い学生さんたちに、少なくとも一日に一回は栄養バランスのとれ

た食事を提供して健康を保てるよう、また、ひとり暮らしをしている子供たちが、どのような食事をしているのだろうか、と不安になり勝ちな親御さんに安心してもらえるよう、食生活の支援の制度として「あんしん食券」というものがあります。

これは、親が学生である子供に仕送りする際に、その一部を現金でなく、ここの食堂で使える食券として渡すことで、あらかじめ親から生協あてに食券の代金を送ってもらい、生協では子供である学生に食券を渡すのですが、それと引き替えに、確かに受けとった旨に加えて、近況を記した受領書を生協が受けとって、それを親に発送する仕組みになっています。親許を離れてひとり暮らしをする学生は、往々にして食事のことにまで細かく気を配って生活ができるとは限らず、思わぬことに消費をして、その分食べるものが粗末となり、健康にも影響を及ぼすことがなきにしもあらずですが、この制度によれば、食券を手に行っている間はまともな食事ができるわけで、また親の方も子供の暮らしに不安を覚えることもなく、安心できるわけです。かなりの学生さんがこの券を手に行っていて、制度が活かされています。

5. 誠実な店長の姿勢

ここの生活協同組合は、組合員である、教職員を含めた学生の共同体ですので、皆で良い意見を出し合って、内容を向上させるようにはかかれています。その一つに、食堂、喫茶、売店等のありかたについての考え、意見を述べる「一言カード」があり、組合員は自分の思ったことを記して投書箱に入れ、生協の責任者はそれに対し、一週間以内に回答を

記し、食堂内に掲示することとなっています。

やはり食事の内容などについての希望が多く、「カレーをもう少し辛くしてほしい」「あたたかいお茶をだしてほしい（ここでは冷たいお茶と冷水が自由に飲めるようになっています）」等々にまじって、従業員に対しての感謝の気持ちが述べられているものもありました。

「おかずを入れてくれた人が優しくて嬉しかったです（工学部2年）」「ご満足いただけてたいへん嬉しく思います。今後とも皆さんに喜んでいただけるような接客を行ってゆきたいと思いますので、よろしく願いいたします（店長）」

なかには要望の趣旨はもっともでも、いろいろな事情でとり入れられないこともあります。

す。「フライのカロリーが高すぎます。エコナ（食用油の種類）で揚げてください（医学部1年）」「ご利用いただき有り難うございます。現在の生協食堂で使っている揚げ物用の油はエコナではありません。植物油を用いています。油もここ1～2年高騰しています。ご提案の油は現在使用しているものより価格も高くなります。メニューの提供価格にまで影響が出ますので、申し訳ありませんが現状では使用は考えていません（店長）」。

メニューについての希望などは各人各様ですので、そのすべてに満足できるような対応はなかなか出来かねるでしょうが、かならず理由をていねいにのべて、理解を求め、納得してもらおうとする店長の人柄が、よくあらわれています。

加賀のいも菓子

藩政時代から茶の湯が盛んであった金沢には、色、形、味わいが上品で洗練された数々の和菓子があり、それらは駅、デパートなどの名店街でも求められますが、おみやげはどれにしようか、と迷ってしまいます。そのなかには加賀野菜の一つ、五郎島金時を用いた

いも菓子もみられます。やわらかめのいも餡をお餅で包んだもの、ホクッとした餡を中に入れて焼き、シナモンの香りをつけたもの、昔ながらのいもようかん、若い人向きに洋風に仕上げたいも餡入りどら焼き、スイートポテト、焼き芋の香りが楽しめるプリン等々、が目につきますが、このほかにもまだ隠れた名菓があるかもしれません。



6. 心も養なう一言カード

メニュー、食堂のありかたについての考え、意見の提示ばかりでなく、なかには人生相談的なものもみられました。「愛って、なんですか（医学部1年）」「ご利用いただき有り難うございます。愛とは何んでしょうか。一言で答えられないのが愛なのでしょう。考えても、答えを追求しても簡単に出ないからこそ悩んだりするのだと思います（店長）」。

「実は研究室で嫌われているらしいのですが、どうすればいいでしょうか。授業がつらいです（文学部2年）」「ご利用いただき有り難うございます。そうですか、それは辛いですね。どうしたらいいんでしょうか、難しいですね。でも、そのような状況になった理由は必ずあると思いますので、その原因をつきとめられて改善してゆけばよいと思います（店長）」。

「〇〇日バイトの面接を受けました。××日の午前に連絡すると店の方がいわれました。××日当日僕の携帯が鳴ることはなかった（工学部1年）」「ご利用いただき有り難うございます。そうですか。待っていて連絡がなかったときのことを考えると、辛いですね。生協でもバイトさんやパートさんを採用しますので、面接等も行います。全員を採用するわけではありませんので、なかにはお断りする方もいます。断りの連絡をするのも、結構辛いんですよ。とにかく元気を出しましょう（店長）」。

希望に燃えて入学したものの、ときには志と異なる場合、とくに親許から離れ、はじめて独り暮らさなければならず、日がたつにつれ寂しさがつのるとき、いつもよいことばかりではなく、ときには一寸した他人の言動が、

多感の若者にとってたいへんな衝撃となることも多いでしょう。友にも、恩師にも、また近所の人にもなかなか相談できないようなときに、利用してもらうことに対して礼を述べ、つづいて自分の人生体験を織り混ぜながら、その悩みを受け止め、包み込み、一緒に考える店長の姿勢が、学生さんたちの信頼を得ていて、講義、ゼミなどの一般の大学教育とはまたちがった側面から、彼等の成長を支えていると思われます。食堂も一つの教育の場となっていて、身体ばかりでなく心にも栄養を与え、優しく見守る店長のお人柄は、とかく心の交流が稀薄となりがちな今日、まこと敬服の至りです。このような自然、人的環境に恵まれて勉学にいそしんだ学生さんたちが、将来明るい世の中をつくるため、力を発揮されることを願って止みません。

編集後記 日ましに暑さが身にこたえるこの頃、赤白黄ピンクと色彩豊かなヒャクニチソウが心を和ませてくれます。先日まであでやかに咲いていたハナショウブが短命なのにくらべ、照りつける日ざしをはねかえすように、一昨日も昨日もまた今日も、地味ながら変わりなく緑に彩りを添えている姿は健気です。巣立った若鳥も加わったのか、飛び交うツバメも数を増しましたが、花鳥に負けないよう、元気に夏を乗り切りたい、との思いです。

いも類振興情報 第88号

平成18年7月15日発行

発行所 財団法人 いも類振興会
〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41
ヴィップ赤坂303号室
電話 03-3588-1040
FAX 03-3588-1225
振替 00130-1-110152
印刷所 JTB印刷株式会社